



社会医療法人近森会

発行 ● 2010年12月25日

ひるっば

1
Vol.294

www.chikamori.com 〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者●近森正幸/事務局●川添昇

年頭所感

高規格・急性期病院への^{みちのり}道程



社会医療法人近森会 理事長 近森 正幸

社会医療法人として

近森会は、「救急」および「災害」の分野での医療活動の実績と運営の透明性が認められ、高知県知事より「社会医療法人近森会」として、2010年1月1日付で認定を受けることができました。

社会医療法人は、公益性、非営利性の極めて高い医療法人であり、その目的は地域において良質で効率的な医療を提供する体制の確保を図ることにあります。そのため、「救急」「災害」「僻地」「周産期」「小児救急」の五つの医療分野のいずれかで一定の実績を上げることが求められ、同族性を排した出資持分のない公益性や、透明性の高い病院運営など、厳しい要件を満たさなければなりません。

これからは、これまで以上に開かれた病院運営を心がけねばなりません。枠にとらわれない自由な民間病院の活力を忘れることなく、常に時代のニーズをとらえ、地域になくしてはならない病院としてあり続ける努力が求められています。

壮大なプロジェクトがスタート

急性期病院である近森病院の全面増改築をはじめとする5年にわたる壮大なプロジェクトがスタートしています。2010年5月には、旧ホテルサンルート解体工事が始まり、近森病院管理棟の建設が始まりました。この管理棟は、近森病院の管理部門のみならず、看護部の本部機能、各種会議室、スタッフルームや休憩スペース、保育所や職員食堂などが整備され、医療現場をサポートするセンターとして機能するばかりでなく、職員の福利厚生にも大きく寄与するものと考えております。

2010年11月10日には、近森病院の北東に立体駐車場が3基オープンしました。70台のミドルーフ車両を収容可能で、近森病院北側の道路に入庫待ちで並んでいた車の渋滞もなくなっております。

11月22日には、近森病院本館の西側、道路を隔てた地に、地上9階建ての外来センターの建設が始まり、2011年4月には管理棟が完成します。その後、現在の

北館と管理棟の跡地に、北館病棟の建設を行ないます。この病棟は、現在の近森病院新館、本館の増改築工事のための仮設病棟として使用します。

北館病棟の完成を待って、現在の新館の改築工事に着手し、その後新たに3階部分で外来センターと陸橋で結ばれた本館を建設する予定で、完成は2014年春を目指しています。現在の新館と本館を合わせて、完成後は全体を本館と呼ぶことにしております。

新しい本館は、1階がERと一般外来、2階は全体が手術室、3階は外来センターとともに画像診断部、血液・生化学検査室、生理検査室、内視鏡センターといった検査フロアになります。4階はICU、CCUが60床、5階にはHCU仕様の病棟が40床整備され、これにより近森病院は全病床の三分の一が高規格の病棟となり、外来センターとともに21世紀の厳しい医療環境に耐えることができる高規格・急性期病院に生まれ変わることができます。

高齢社会の急性期医療はどうあるべきか

現在、65歳以上の患者さんは、近森病院の入院患者の76%を占めておりますが、団塊の世代の高齢化に伴い、人手のかかる高齢患者がこれまで以上に増加し、病院にとって大変な時代を迎えようとしております。先日他院で透析を行なっている患者さんが、総胆管結石と胆管炎で入院され、迅速な胆管ドレナージの後、内視鏡的乳頭切開と結石の碎石を行ないました。わずか6日で退院されましたが、グローバルスタンダードでは更なる短縮が求められています。

このように、これから高齢社会の急性期医療は、いかに迅速、確実に根本治療を行ない、栄養やリハビリテーションをはじめとするチーム医療で、いかに早く自宅に帰っていただくかがキーとなります。そのためにも医師、看護師をはじめとしてコメディカルのマンパワーを充実させることと、各職種の質の向上をさらに図っていくことが求められます。ハードと共にソフト面も充実させ、夢と使命感を持って、新たな時代を皆さんとともに乗り越えていきたいと願っております。

おしっこあなどるべからず ～透析が 必要にならないために～

近森病院透析科科長 吉村 和修



11月23日(火・祝)に「おしっこあなどるべからず～透析が必要にならないために～」という題で高新RKCホールにて公開県民講座を行わせて頂きました。

講演は四部構成で行い、まずは私が腎臓の働きや慢性腎臓病の概要を、引き続き高知大学の公文義雄先生に生活習慣病と慢性腎臓病のかかわりや対処法について講演いただきました。その後谷村先生より高知県透析医会会長として、高知県の慢性腎臓病の現況や医療機関の紹介、CKD連絡協議会で用

意している紹介状の紹介等をしていただき、最後に管理栄養士の有光さん、宮島さんから食事制限の実際についてお話いただきました。

講演は全部で90分程度でしたが、開演から終了まで大きなトラブルもなく無事終わることができました。講演いただいた先生方、コーディネートしてくださった入江先生他、スタッフとして支えてくださった多数の皆様方に改めて深謝いたします。

慢性腎臓病は、透析になる直前まで症状に乏しく病初期は見過ごされがちな疾患です。一方、病期が進むごとに

治療に対する反応は悪くなり早い段階での医療機関の受診が必要です。

高知県は透析導入率が常に全国で上位に入っており、その改善のためには腎臓病の早期からの治療が必要と思われます。しかし実際は外来で腎臓病の紹介を受けるともうすでに腎機能の悪化は高度であり、治療介入してもあまり劇的な効果は期待できない方が非常に多いことを日常感じています。

今回の県民公開講座が、腎臓病の早期発見、早期治療のきっかけとなり透析になる方が少しでも減ることを期待しています。

中四国放射線医療技術フォーラム2010 in 高知

日本放射線技師会 学術奨励賞を受賞

近森病院画像診断部
診療放射線技師 小林 史典



下肢動脈CT撮影は、主に閉塞性動脈硬化症の疑いのある患者さんに行う検査です。検査の結果から、外科的治療か内科的カテーテル治療なのかの判断材料になります。撮影範囲が腹部から下腿下部までと広く、さらに造影剤循環時間は、患者の心機能や血管閉塞の有無などにより、大きく異なることがあります撮影タイミングが難しい撮影領域です。

マルチスライスCTの普及により高速撮影が可能となりました。しかし、従来の撮影方法である造影剤循環時間を一箇所計測して撮影する方法では、造影剤を撮影が追い越す事例が起きました。そして一年半前に、十年以上経験のある技師や、新人技師でも簡単に、より良い造影効果が得られる撮

影方法を考えました。それは、造影剤循環時間を上腹部と膝、二箇所計測して患者さんの血流速度に沿って撮影するものです。これにより造影効果がずいぶん良くなる結果が得られました。

話は変わり学会大会の閉会式での話です。閉会式の時点で



受賞の事は何も聞いておらず、自分にとってかなりサプライズな受賞となりました。しかし、全く予想してなかった分、嬉しさも倍以上になりました。そして、ハッピーエンドで終わり安堵していると、学術論文の制作というおまけがついてきました。

この一年半を振り返ると、資料を集め勉強し試行錯誤することで、自分が大きく成長できたと感じます。だから、大変でしたが挑戦して良かったです。

1月の歳時記 きんかん 金柑

地域医療連携室看護師 池永利江

金柑は中国長江中流域が原産で、日本へは江戸時代に清の商船が静岡県清水に寄港した際、砂糖漬けの実が贈られ、その種を植えたところ、やがて実がなり、その実から取った種が日本全国に伝わったそうです。

果実はビタミンPも豊富で咳や咽頭痛に効果があり、民間薬としても観賞用としても好まれています。現在品種改良が進み、糖度18度のものであるそうです。



絵・総務課広報担当
公文幸子



神経内科専門医が 5人に増えました!!

近森病院神経内科主任部長 山崎 正博



前列左から明神和弘、筆者、楠目大輔、後列左から橋本恵子、森千祥

社会医療法人近森会の日本神経学会認定神経内科専門医が平成22年10月より5人に増えました（非常勤1名を含む）。

神経内科領域には脳卒中、てんかん・けいれん発作、脳炎・髄膜炎、ギランバレー症候群など救急疾患から、パーキンソン病、多発性硬化症、筋萎縮側索硬化症、脊髄小脳変性症など慢性に

経過する神経難病疾患など多彩な疾病が含まれます。

専門医が増えたことでこれまで以上に診療内容の充実を図るとともに、全国的に神経内科医が少ないなか、高知県の神経疾患診療の中心となる体制ができたように思います。

今後は診療のみならず、各医療機関

と連携をとりながら高知県の神経内科教育病院としての役割も担ってゆく予定です。各方面のご支援を宜しく願ひ申し上げます。

全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会主催

回復期リハビリテーション看護師認定

楽しさを伝えたい!

伝える力を



近森リハビリテーション病院
3階東病棟看護師長 中越 由紀

私が回復期リハ認定看護師の研修に参加したのは、「リハ看護の楽しさを人に伝えたい」と思ったのがきっかけでした。10年以上リハ看護を実践してきましたが、伝えたいと思ってもそれを言語化できないことに気が付き、この研修に参加することにしました。

研修では自分の知識不足を感じ、たくさんの知識を頭に詰め込むのに苦労しましたが、知識を得たことにより、今まで伝えられなかったことを言葉にすることが容易になりました。かかっていた霧が晴れたような思いでした。

今回の研修の成果をどのように活用できるか、まだ検討しているところですが、師長として、教育委員としてリハ看護を学習できる環境を整えていくことが今できる自分の役割だと考えています。



近森リハビリテーション病院
4階東病棟看護師長 南 和芳

師長になってから、スタッフを指導し関わりが多くなると、「人に伝える事の難しさ」をつくづく感じます。自分の指導が伝わりにくいと思うことが多くなりました。そこで、認定看護師の研修を受講して、一つ一つの目的や根拠など再度勉強し、きちんとした表現で十分な説明、指導をしていけるようになりたいと思いました。

研修はとても勉強になり、回復期リハ看護師の役割を再確認しました。講義だけでなく、その後の実践活動やレポートを通して、自分で問題点をあげて計画性を持ち活動する力、自分の考えをまとめて文章にして伝える力、今後の課題などたいへん身になる勉強になりました。研修で学んだことを認定看護師として皆さんに伝えていきたいと思っています。

!! 乞! 熱烈応援 !!

楽しく働く!



近森病院内科科長
ひろもと
市川 博源

近森病院に勤務して約半年が過ぎました。周囲の方々に支えられて楽しく、やりがいを感じながら働かせていただいています。

医師として仕事をする上でプライマリケアの5要素（近接性・包括性・協調性・継続性・責任性）を大切にしています。さらに自分自身が楽しく働くことも大切なことだと考えております。

今後、個人的には内科医としてのレベルアップに努め、組織の一員としては地域医療を支える一翼を担いたいとも考えております。

今後ともよろしく申し上げます。

お知らせ

★第81回地域医療講演会医療安全セミナー
「知っておこうハイリスク薬のポイント
—インシデント・アクシデント報告から—
平成23年2月5日(土)9:00~11:00
高新文化ホールにて

★第4回高知赤十字病院/近森病院
合同バス大会
平成23年2月26日(土)9:00~12:00
コンフォートホテル高知駅前にて

★講演会「作法としての生老病死」
講師 社会医療研究所 所長
岡田玲一郎先生
平成23年2月26日(土)14:00~
高新RKCホールにて

ちょっと気になる話題の治療法 6

— アダパレン (ニキビ外用治療薬) —

近森病院形成外科部長 赤松 順



お正月のおめでたい雰囲気から丸顔の柳原可奈子さんのTVコマーシャル「ニキビはお肌の病気だよ!」を思い出



します。ニキビは、毛穴周囲の角質が増生(毛包漏斗部の角化異常)し、毛穴に皮脂が詰まりアクネ菌が増殖して悪化します。

ビタミンAの類縁化合物であるレチノイドは、生体内では、形態形成や細胞の増殖分化の制御因子として不可欠です。レチノイドの中には、しわやしみの治療に用いられるものもあります。合成レチノイドの一つであるアダパレン(CD271)は、日本初のレチノイド様作用を有するニキビ治療剤で、表皮細胞内の核内レチノイン酸受容体に結合し、標的遺伝子の転写促進を誘導、表皮角化細胞の分化を抑制してニキビを減少させます。すなわち、毛穴の出口に蓋をしてしまう異常角化を抑えて、皮脂の排泄を促す事により、ニキビの発生を抑えます。

保険治療が可能な外用薬です。お悩みの時は、皮膚科・形成外科にご相談下さい。

● ● 医 ● 療 ● 安 ● 全 ● ●

プライバシーの尊重

近森病院医療安全担当

医療福祉部医療相談室室長 野村 真紀



個人情報保護法が施行されたのは2003(平成15)年。救急搬入された意識不明の方のご家族と大至急連絡を取りたい、と役場へ相談するも「個人情報ですから」とまったく取り合ってくれずたちまち困ったことがあった。とはいえ、法ができたことによって、「個人情報を取り扱う責任」という意識が少しずつ社会全体に定着してきているように思う。

私たち医療の世界では、「個人情報」というより本人のプライバシーという

言葉のほうがなじむのではないかと思う。なぜなら病院での患者は、本人の意思とは関係なく治療・入院を通して身体や心はもとより時には家族関係や家計状況までも曝け出さざるを得ないからだ。

「プライバシーの尊重」という意識で責任をもって個人情報を取り扱っていくと、自ずと誰のための医療かという原点を確かめることにつながり、医療安全につながるように思う。

2010年12月10日(金)近森会グループ忘年会でのMVP表彰

近森会グループ MVP



左から深田和生、坂本瑠璃、古田博美、理事長、梅原加奈子、小林史典
糖尿病サポートチーム (チームで受賞)



左から岩井千代美、武市さおり、伊与田美香、理事長、西村剛、横田朋枝、筒井ますみ、松本有里



近森会グループよさこい「ちかもり」(チームで受賞)

ハートセンター MVP



後列左から入江博之部長、川井和哉主任部長、楠目祥雄部長
前列左から松居朋世、谷脇和歌子、影山香、北川弥生、明神有希、柳井遊亀子、和泉真利枝

医療安全委員会 MVP 団体賞



近森病院6階東病棟の皆さん

医療安全委員会 MVP

山崎委員長と田井由紀



第9回高知中央医療圏脳卒中地域連携パス合同会合「症例検討報告会」



連携パスの使用状況

高知中央医療圏脳卒中地域連携パス事務局
近森病院脳神経外科部長 高橋 潔



なり今後この運用が課題となります。

このあと実際にパスを使って運用された患者さんを検討しました。急性期から回復期、かかりつけ医と流れに沿ってそれぞれの担当者から経過を報告、問題点を検討しました。多施設で治療をうけ実際の様子をいろいろなデータをみながら活発な討論が得られました。

最後にデータバンクへの情報提供のための取り組みについて賛同をお願いして了承が得られました。今後、さらなる円滑な連携を目指していきたいと考えています。

肝動脈化学塞栓療法 (TACE) のクリニカルパス大会

肝動脈化学塞栓術 (TACE) のパス発表



12月10日総合あんしんセンターにて、第27回クリニカルパス大会が開催され、肝動脈化学塞栓術 (TACE) のパスの発表がありました。

担当は消化器内科と放射線科で、5階東病棟、放射線科看護師、管理栄養士、薬剤師、医事課から説明があり、かなり良いパスが出来たのではないかと考えています。反省点はTACEをしている施設とのベンチマークがなかったことと、それらの病院のスタッフの出席が少なく、討議ができなかったことです。

今回のパス作成にあたり、放射線科



近森病院消化器内科部長
榮枝 弘司

看護師が術前訪問をすることや硫酸アトロピンや抗菌剤を使用しないこと、食事制限もしないこと等これまでと変更した点も多く、お互いにより良いパスを作るためにも他の病院との比較検討や討議が必要でした。今後パスの運用を開始してから、問題点を明らかにし比較検討したいと思います。

2010年11月21日午前9時から3時間、高知医療センター「くろしおホール」で182名の参加で連携パス会合を行いました。

事務局より昨年一年間の連携パスを含めた症例の報告が行なわれ、2009年度は計画管理病院全体で2004症例の脳卒中があり、このうち40%で連携パスが使用されました。主たる連携パス不使用の理由は自院外来でのfollowでした。

連携パスに関して利用されているところでは、運用に慣れ軌道に乗ってきましたが、使用頻度の少ない施設ではまだ戸惑うことも多いようです。本年度からかかりつけ医もきちんとした形で参加を促した結果24施設が参加と

初期研修医の受賞報告

第97回日本循環器学会四国地方会
研修医優秀演題賞

初期研修医
石井 洋介



この度は日本循環器学会研修医優秀演題賞という素晴らしい賞を頂き、喜びで胸がいっぱいです。このような素晴らしい賞を受賞出来たことは偏に浜重先生をはじめ指導医の皆様の熱心な教育の賜物だと思っております。とりわけ直接指導を頂いた関先生、斎藤先生には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

初期研修医
竹村 光広



12月4日、第97回日本循環器学会四国地方会で発表の機会をいただきありがとうございました。発表は緊張しっぱなしでしたが、予想していた質問をされ、なんとか浜重先生のフォローもいただきながら回答することができました。反省することしきりでしたが、このような賞をいただき本当に励みになりました。

第103回日本内科学会四国地方会
研修医奨励賞

初期研修医
山本 亜希



11月7日、内科学会四国地方会で「感染性腹部大動脈瘤の2症例」という演題で発表させていただきました。緊張の発表後、のん気に先生方と昼食を食べていると一本の電話が。なんと研修医奨励賞を取ったと連絡を頂きました。本当に驚きの一報でした。夜遅くまでご指導いただいた窪川先生、中岡先生、そして賞を受け取ってくださった川井先生、有難うございました！

松本先生をお招きして

近森病院泌尿器科主任部長 谷村 正信



秋の学会シーズンの合間を縫って、産業医科大学泌尿器科の松本哲朗教授をお招きし、11月12日(金)に「耐性菌アウトブレイクとその対策」と題して地域医療講演会を開催しました。

松本先生が理事長を務める北九州病院感染対策チーム(KRICT)での実例を通して、病院感染対策の話を中心に伺いました。北九州では、個々の病院における感染対策から、行政をも巻き込み地域での感染対策を行っているそうです。その中で、耐性菌の実情、院内感染情報の収集、その情報の共有といった地域連携の重要性などを分かりやすく説明して頂きました。

尚、当日は会場予定の近森リハビリテーション病院の近隣火災で、講演会



開催も危ぶまれましたが、無事開催出来ました。

お手伝い下さったスタッフの皆さん



誠に有難うございました。この場を借りまして御礼申し上げます。

「リカバリーへの道」～心の病から回復し、自信を取り戻し、生活を立て直す～

近森病院第二分院作業療法室室長 山内 学

SSTを通じての精神医療を中心に多方面で多大に貢献してくださっている



前列向かって右から二人目が筆者

ルーテル学院大学名誉教授の前田ケイ先生が今年度をもって全てのお仕事からリタイアされることとなり、西日本での最終講演を高知でしていただきました。

リカバリーという言葉がたくさん聴く機会がふえてきました。これは病気、心身の障害、社会的な困難を持つ状態から立ち直り、必要な支援を得ながらかけがいのない自分の人生、自分の生活を、できるかぎり希望を持って主体的に続けていく過程です。

前田先生にそのことについてわかりやすく、SSTの実践を交えて話していただきました。また、「希望」と専門職は「決して諦めない」の言葉は、私たちへのエールと期待の贈り物でした。参加者からは講演の感想とともに「何故、最後が高知なのですか？」の質問が多くきかれました。「これも宮崎副院長のネットワーク作りの賜物です」と答えると理解されていました。

四国内から370名を超える方に足を運んで頂き、無事に終了する事が出来ました。この場を借りて、今回講演会の開催に際しご協力頂いた方々に、厚くお礼申し上げます。

翌日は、SSTのワークショップの講師を9時間して、足摺・四万十観光にでかけました。私たちを元気にしてくれる素敵なケイ先生でした。または非高知に来て下さい。



リレーエッセイ

第二の青春

近森オルソリハビリテーション病院秘書 下元 彩香

昨年は、サッカーやバレーで日本は大活躍してくれましたね！

昔からスポーツは好きなのですが、ここ数年は専ら観戦担当でした。そんな私が今久々にはまっているのがフットサルです。ちょうどサッカーで盛り上がっている時期に友人からフットサルのお誘いを受け、チームへの参加を決めました。女性が多く子供もいるようなチームのため、和気藹々と楽しくプレーできています。

始めにパスやドリブルの練習をし、その後チーム内で試合をします。練習ではうまくコントロールできても、試合となると雰囲気圧倒され思うようにプレーできません。

しかし、サッカーよりもコートが狭く一度の試合でボールに触れる機会が多いため、『ボールを蹴る楽しさ』に目覚めています。

今の目標は、意表をついたパスを出せるようになることと、やはり1



左は筆者、右は仲良しの整形外科津野秘書

点でも多くゴールを決めることです。

初めは軽い気持ちで始めましたが、自分自身で小さな目標を決め達成していく充実感、皆でプレーをし点が入ったときの一体感は青春時代を思い出します。いくつになっても限界を決めず、一歩踏み出してみることを目標に一層飛躍したいと思います。

飄々と、しかも ほんわか温かく

「慢性疼痛は病気、何とかすべき」が持論

肩に力が入らない生き方とでもいうのだろうか、いつも飄々としてほんわか温かい須賀部長の存在は、しつこい痛みを抱える患者さんにとって「先生の顔を見ただけで妙に落ち着くちや！」と、居るだけで救いにもなっているようだ。

「3カ月以上も続く慢性疼痛は病気と考えると何とかすべき」が持論の須賀部長は、薬物療法ではモルヒネなどの医療用麻薬を必要に応じて使う。麻薬と聞くと、医療の素人はよっぽど状態が悪い最期の手段ではないかとか、中毒は大丈夫かとか、漠然とした不安を持ってしまう。が、部長は「副作用を制御しながら使うことで危険性は抑えられ、痛みがある人なら依存性を心配する必要はないことが実証されている！」と、きっぱり。

痛みの撲滅に一緒に取り組もう

痛みのクリニック科で扱う痛みは多岐にわたり、痛みがとれるだけで寿命が延びるような例もあり、この領域の広さや深さには治療者として魅了され続けているという。「やればやるほど、さじ加減の微妙さがわかってくるし、痛みの領域は心のありようとも密接にからんでいると痛感する」。だからこそ、「いっしょに頑張ろう！と相手に沿う姿勢がなにより求められる」。相手をぐんぐん引っ張るといふより、相手のペースを尊重して「沿う」のだろう。だから肩に力が入らないし、包むような温かさも生まれるのではないだろうか。

自分のペースを押し付けず包むような大らかさで相手に力を発揮させる「伴走力」は、公私のパートナーである妻の由佳ナースをも大きく羽ばたかせているようだ。「来春から東京の和光大学現代社会学科に入学するって。熱心やる！」と、妻の向学心を代わってアピールする優しい夫でもある。

イクメンならぬ「家事メン」の家庭力

高校の数学教師の両親を持ち、男の子三人の長男として子どもの時分から

家の手伝いをする良くできたお兄ちゃんだった。家庭を持ってからも家事はテキパキこなすイクメンならぬ「家事メン」でもある。だから、夜間の短大で学ぶ妻のことも心から応援できたし、大学入学の妻の晴れ舞台も、後顧の憂いなく送り出してあげられる。

誇りをもって伸び伸び近森体質

近森会に勤めて丸20年が過ぎた。最初の10年間は麻酔科で、大御所の平野政夫部長と岡崎亀義先生との三人体制。教えられることもたくさんあり、夜勤も多くこなした。ちょうど10年



今年9月のバリ島への職員旅行は夫婦で前、世界を揺るがした9.11同時多発テロの数日前に狭心症の発作に襲われ、入院を経験した。その折、それまでの近森生活を振り返り、「やりたいことを伸び伸びと、しかも誇りを持ってできる近森体質に、自分の体質が合うから続けてこれた」と、しみじみ実感したという。

発作を転機の大きなきっかけにして

その発作もきっかけとなり、麻酔科での蓄積を究めるべく痛みのクリニック科に移ることを決心。以来10年、できるだけ細い注射針で、できる限り浅く、より小さい神経を目標に痛みを遮断させる神経ブロック療法に取り組んできた。

狭心症発作の一週間の入院の直後に日曜市でゴールドバニーという名の美しいバラに出会い、以来バラが趣味となった。ずっとモノクロ印刷だった『ひろっば』がカラー刷りになるきっかけの一つにもなった須賀部長宅の見事なバラの写真をご記憶のかたも多いので

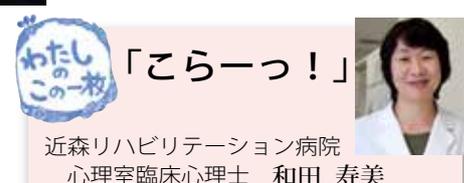


首や肩、腕に激痛がある場合は、腕(わん)神経叢ブロックといって首の付け根に麻酔薬を注射する療法が一般的。身体の痛みを取るには他に「経仙骨孔ブロック」(療法)もあり、いずれも熟練した手技が求められる

はないだろうか。

興味の対象をコツコツ究める

「自由に好きなことを探さない」と折に触れて教えた両親を見習い、知れば知るほど興味の対象が深まる痛みの研究にコツコツと取り組み、まるで研究者のような生活が続いている。そんな親の姿を見て育った三人の子どもたちもいまそれぞれに、医療の道を歩み始めているという。



近森リハビリテーション病院
心理室臨床心理士 和田 寿美

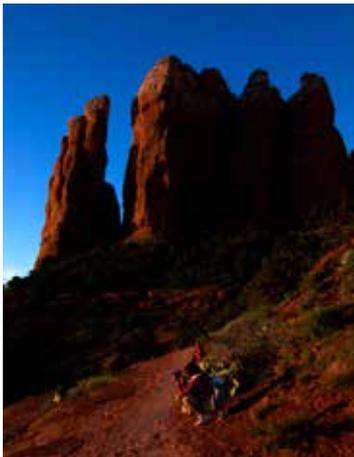


現在6歳となったわが子たちが、もうすぐ1歳を迎えるという頃です。双子の成長になかなかついていけず「キャーやめて」と叫んでいた日々、今は「こらっ！」に。

水筒を振り回してお茶を撒き散らして大喜びでした。あまりに嬉しそうで「いいよ、後で拭いたらいいもんね」と、ばちりと撮った一枚です。この位でと思われるかもしれませんが、写真を撮る余裕を持た、自分にOKを出せる一枚なのです。これからも、こんな風に見守れたらいいね。

職員旅行 ● セドナ

カセドラル・ロック
ハイキングツアーで朝日を望む



一番最初に行ったパワースポット(四大Vortexの一つ)エアポート・メサ。大地からのパワーを感じるでしょ？



アンテロープ・キャニオン

ニューフェイス ①所属②出身地
③最終出身校
④家族や趣味のこと、自己アピールなど

編集室通信

お正月の楽しみは箱根駅伝！ 毎年、予選会からチェックして当日は前夜新年会でどんなに遅くなくても朝から熱烈応援しています。仲間に襷をつなぐという気持ちが、苦しい時自分のためだけに走っているのではないと選手に力を与えているのだと毎年胸が熱くなります。私も「仲間がいるから頑張れる!!」と年始に思い、今年も元気に疾走します(陽)

2010年11月の診療数	近森会グループ		企画情報室
	外来患者数	17,902人	
	新入院患者数	781人	
	退院患者数	779人	
	近森病院		
	平均在院日数	15.72日	
	地域医療支援病院紹介率	85.34%	
	救急車搬入件数	388件	
	うち入院件数	194件	
	手術件数	433件	
	うち手術室実施	266件	
	→うち全身麻酔件数	145件	

図書室便り (2010年11月受入分)

- ・ AANA Advanced Arthroscopy The HIP / J.W.Thomas Byrd (他編集)
- ・ AANA Advanced Arthroscopy The ELBOW and WRIST / Felix H.Savoie III (他編集)
- ・ 整形外科 Knack & Pitfalls 股関節外科の要点と盲点/久保俊一 (編集)
- ・ 橈骨遠位端骨折 進歩と治療法の選択 / 斎藤英彦 (他編集)
- ・ 図解よくわかる整形外科 MRI 診断実践マニュアル / 伊藤博元 (編集)
- ・ 上腕骨近位端骨折 適切な治療法の選択のために / 玉井和哉 (編集)
- ・ OS NOW Instruction 整形外科手術の新標準 16 膝・足関節および足趾の骨切り術 ベストな手技のコツ&トラブルシューティング / 安田和則 (担当編集)
- ・ 使える皮弁術: 適応から挙上法まで 上・下 / 中島龍夫 (他編集)
- ・ MRI3 血管障害、腫瘍、感染症、他 / 高橋昭喜 (編著)
- ・ 臨床・病理 肺癌取扱い規約 第7版 2010年11月 / 日本肺癌学会 (編集)
- ・ ステップアップ 消化管超音波検査 / 岩崎信広 (他著)
- ・ 透析患者への投薬ガイドブック 慢性腎不全 (CKD) の薬物治療 改訂2版 / 平田純生 (他編著)
- ・ ケースブック患者相談 / 瀧本禎之 (他編集)
- ・ 平成22年度 看護白書 テーマ: 変えよう! 看護職の労働条件・労働環境 ワーク・ライフ・バランス推進ナビ / 日本看護協会 (編集)

《寄贈本》

- ・ 突発性大腿骨頭壊死症 / 久保俊一 (編集)

《別冊・増刊号》

- ・ 別冊 整形外科 58 肩関節・肩甲帯部疾患一病態・診断・治療の現状 / 長野昭 (編集)
- ・ 別冊 医学のあゆみ 精神医学 Update ー最新研究動向 / 笠井清登 (編集)
- ・ 臨床透析 25周年記念別冊 透析医療のブレイクスルーを探り、将来を展望する / 加藤明彦 (編集)
- ・ NHK きょうの健康 別冊 生活実用シリーズ 不安解消! 糖尿病 薬と食事の疑問がスッキリ / 池上晴之 (編集)
- ・ デンタルハイジーン 別冊 歯科医院で気づく・見落とさない! 色と形からみる口腔粘膜病変 / 井上 孝 (他編著)
- ・ 臨床スポーツ医学 27巻臨時増刊号 競技スポーツ帯同時に役立つ 外傷初期治療ガイド / 臨床スポーツ医学編集委員会 (編集)
- ・ 臨床と微生物 37巻増刊号 これからのインフルエンザ対策 / 牛島廣治 (他著)
- ・ 日本医師会雑誌 139巻 特別号(2) 生涯教育シリーズ 79 糖尿病診療 2010 / 岩本安彦 (他監修)
- ・ 泌尿器ケア 2010年 冬季増刊 今日からケアが変わる 排尿管理の技術 Q & A127 / 後藤百万
- ・ 透析ケア 2010年 冬季増刊 患者さんにもわかりやすいシートでらくらく説明できる! 透析患者の合併症 50 / 大平整爾 (編集)
- ・ 呼吸器ケア 2010年 冬季増刊 この1冊でらくらくマスター! ベッドサイドで役立つ呼吸アセスメント Q & A101 / 田中正 (監修)